

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

神奈川県 横浜市

【事業概要】

| 業務名 | 業種名 | 現在配水能力(合計)(m^3 /日) | 類似団体区分 | 施設数 | 1日平均配水量(m^3) |
|-----------|-------------|-----------------------|-----------------|--------|------------------|
| 法適用 | 工業用水道事業 | 362,000 | 大規模 | 1 | 105,895 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 給水先事業所数 | 契約水量(m^3 /日) | 管理者の情報 | |
| - | 82.9 | 68 | 255,000 | 自治体職員 | |

グラフ凡例

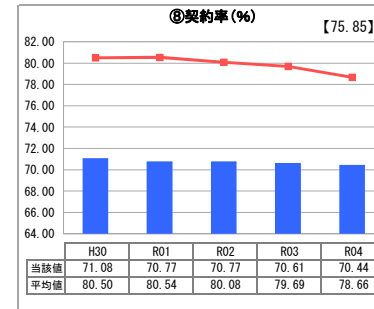
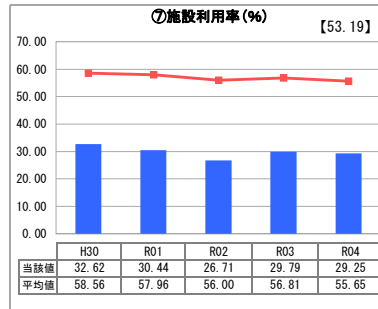
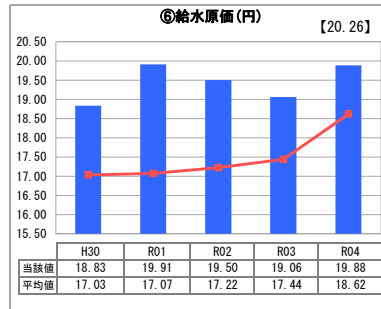
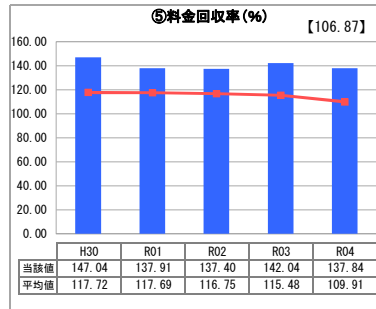
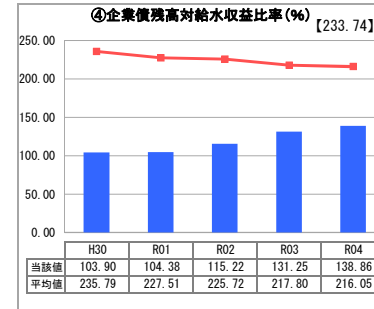
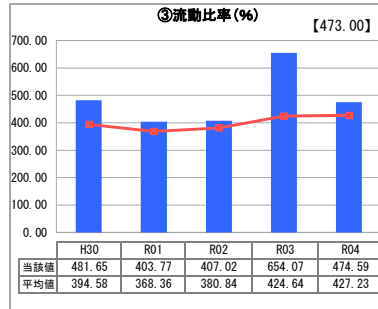
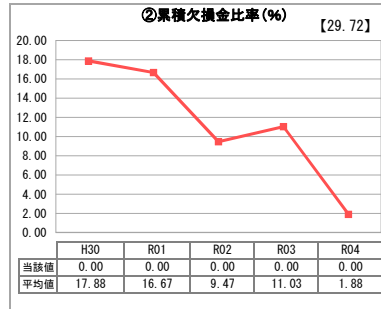
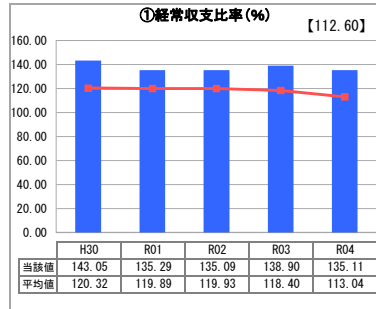
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

分析欄

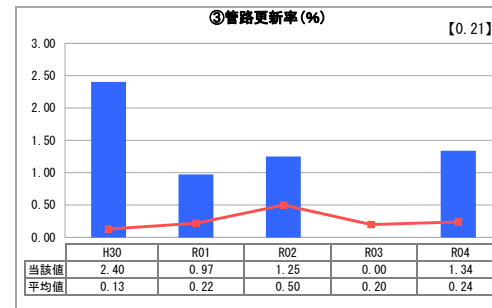
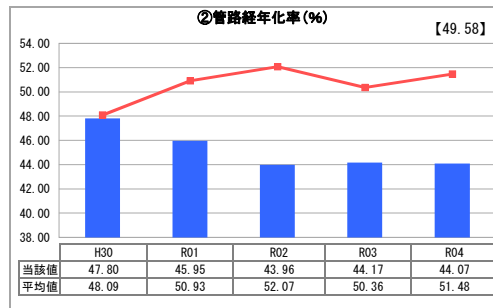
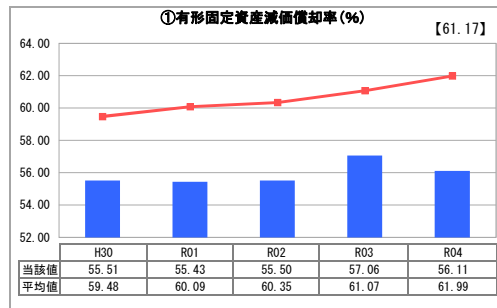
1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、電力料金の高騰などによる負担金の増や、施設更新に伴う供用廃止資産の除却費の増等により前年度比3.79ポイントの減の135.11パーセントとなりました。また、同様に料金水準の妥当性を示す料金回収率も前年度比4.2ポイント減の137.84パーセントとなりました。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性効率性に関する指標が示すとおり、現在の経営状況は概ね良好といえます。しかしながら、施設、管路の老朽化、本市及び県内の水道事業の再構築等に対応するため、大規模な施設整備が必要となることが予測されるため、適切な企業債の活用、国庫補助金等の更新事業費の財源確保、事業の効率化を進め、将来にわたって安定給水ができるよう、工業用水事業の基盤強化を図っていきます。